

まちづくり出前市長室（里浦地区）開催記録

1. 日 時：平成23年9月30日（金） 午後7時～午後9時
2. 場 所：里浦公民館
3. 出席者：里浦地区自治振興会・市民（約30人）、
市関係者（市長、副市長、市民環境部長、市民環境副部長、市民協働推進課）

-
1. 大黒会長（里浦地区自治振興会）あいさつ
 2. 市長あいさつ

3. 鳴門市自治基本条例について

～市民環境副部長より、資料に基づき説明～

市民 自治基本条例の説明を聴いたが、行政は地区の住民等にどのようなアドバイスをしてくれるのか。

市民環境副部長 公共サービスの提供は主として行政の仕事だが、まちづくりは行政だけではできない。

住民自治を実現するためには、行政としても住民の意向を十分汲み取ったなかでやっていかなければならないと考えている。これは、様々な場面で言えることで、たとえば行政が市民から相談を受けたときに、行政として持っている知識や情報を懇切丁寧に伝えていくような努力が必要である。また、市民の皆さんには、行政の施策の策定過程においてもできるだけ参加していただきたい。

市民 市には、平松ポンプ場の件に関して、丁寧に対応してもらい感謝している。しかし、そのなかで問題視しているのが、ポンプの負担金徴収が農家だけであるということだ。排水ポンプには家庭からの生活排水も流れているので、農家だけが負担するのではなく、市民税として市民全体から徴収できるような仕組みや基金を作ることはできないのか。

市長 議会に議案を提出し、それを議会に認めていただき、市民の皆さんにもご理解をいただけたら不可能ではない。ただ、国が増税するという話が出てきているので、市が行政改革をして、財源はそこから確保することが先ではないかという議論が出てくる。そして、捻出した財源をもとに、どのような配分で市民サービスを行うかということ提案し、議会で議論し、優先順位をつけていくことになる。ポンプの件については、「受益者負担」ということになっている。これは、「利益を受ける方が、ある程度の割合のなかでお金を出し合う」ということである。これはたとえば、一般道路については工事をしても皆さんに直接お金は入っていかないと思うが、農道の場合であれば、「農家の方のために道路を作った」という見方をするので、農家の方には4分の1程度のご負担をしていただきながら、鳴門市と国からも負担をするというルール付けをしているため、平松ポンプ場については、農業に係る施設であるので、その分の負担金を、若干ではあるがいただいているということである。家庭からの排水も出ているが、今述べたようなルール付けをしているので、農家の方からいただいているということである。以上のことから、先ほどご質問をいただいたようなことを行うことは不可能ではないが、市民の皆様方のご理解をいただかなければ難しいことであると考えている。この度、自治基本条例が制定されたということもあり、鳴門市だけでも住民税を上げて、先ほどの質問に答えていくことはできるかもしれない。つまり、これからは地域でどのようにお金を使っていくかということについて地域で議論をしていくような形になるのではないかと考えている。そのためには、皆様方と一緒に考え、行動することを念頭に置き、進めていきたいと考えている。

市民 まちづくりに関して、自分は若いときから消防団に入団しており、現在は息子が入団しており、台風の際には見回りに出ている。里浦地区は農家を中心とした自営業をしている世帯がたくさんあり、活気のある地区であり、そういった参画が自然な形で行われている。その中で自治会も組織としてしっかりと成り立っており、退職された方にも技術や知識を生かしていただいているので、里浦地区はこうしてまとまっている。里浦地区は、自治会がしっかりしているので、市民側も積極的に発言や活動をしていけると信じている。われわれは真剣に取り組んでいるので、市もそれに応えていただけるようにまちづくりに信念を持って取り組んでいただきたいと思いますのでよろしくお願いしたい。

会長 条例にある「協働」を進めていくのであれば、市民の生の声を聴いていただいて、努力をしていただきたいということがわれわれの主張であり、そのための自治基本条例であるにとらえているので、市の協力をよろしくお願いしたい。

市長 消防団の活動については私自身、頭の下がる思いでいる。先日の台風の際には、皆様方に分団詰所に詰めていただいた。台風の発生した日だけではなく、その次の日にも引き続いて詰めていただいた。消防団については、究極のボランティアと思っている。自治基本条例が浸透していくには、時間がかかると思うが、里浦地区で進めて来られている「住民自治」や住民の自発的な活動など、言葉ではわかっていた考え方を文章にしたものが自治基本条例であると考えていただけたら良いと思う。わかりやすい表現になっているので、一度読んでいただけたらと思う。

また、農家の皆さん方の現状については、今後も検討を続けていきたいと考えている。

4. テーマに基づく意見交換「自治振興会とまちづくり」

○里浦地区自治振興会の活動報告〔※スライドを使用して報告〕

自治振興会役員 里浦地区自治振興会は、平成7年11月18日に発足した。市内で12番目に発足した。東西南北にある21の町内会と地区内にある各種団体を結集し、里浦地域のコミュニティ組織として結成された。現在の加入数は1081戸である。ちなみに住民票による世帯数は1463世帯、人口は3984人である。住民が互いに連携し、自主的な活動を通じて自治意識の高揚を図りつつ、安全で住みよい里浦づくりを目指して活動をしている。活動の主体となっているのが、各専門部会（環境部・安全部・文化部・福祉部・体育部）である。それぞれの部会が中心となって、多くの方にご協力していただきながら活動を進めている。

環境部会は、公園などの清掃や除草を行っている。里浦地区で最も不法投棄が多い北地区では、住民がボランティアで峠の草抜きや不法投棄の撤去を行い、苦心されている。不法投棄防止のための看板を立てるなど対策に取り組んでいるところだが、なかなか効果が見られない現状もある。南地区でも昨年、「不法投棄監視パトロール隊」が結成された。街路樹の剪定や道路の清掃については、里浦町の全体的な取り組みとして年間に5回ほど行っている。「ふれあい公園」は、地域の皆さんのご協力をいただいて管理を続けている。「なかよし公園」については、平成22年度の地域づくり事業活性化補助金を活用して、遊具の塗装や花壇づくりを行った。整備前には荒れていた公園だったが、整備後には綺麗になり、子どもたちの遊び場となった。また、毎年5月に行っている大手海岸の清掃については、今年はセアカゴケグモが発生したために、中止せざるを得なかった。地域の避難所の草刈りも行っている。さらに、EM菌による環境浄化活動も進めている。EM培養小屋が今年の5月に完成した。6月からは培養の段階に入っている。2週間に一度ほどのペースで作業を行っており、一月

につき400～500リットルほど出来上がっている。これを各家庭に配布しており、水路の浄化等を推進している。小学校のプールの清掃にも使用した。また、廃食用油については平成20年4月から回収に取り組んでおり、平成23年3月末現在で、2715キログラム、ドラム缶にして約15本分を回収し、地域をあげて、資源ごみ回収に取り組んでいる。廃油を精製すると、その95%までがバイオ燃料として使用可能なものになる。廃油を川に流したりゴミに出したりせず、地域での回収を今後さらに推進していきたい。

次に、文化部会の活動については、平成14年度より、廻り踊りを守ろうと伝統文化の継承と後継者の育成に努めている。鳴門のまつりでも披露している。

福祉部会は、敬老の集いや独居老人のお宅への友愛訪問などを行っている。

体育部会の活動については、毎年夏休みに水泳教室を開催している。熱心な指導により長年続いている。3世代交流のグランドゴルフ大会も長年にわたって続いている。10月9日には「町内健康ウォーキング」ということで、津波避難場所を巡る全長7キロメートルのコースを歩く予定である。

安全部会では、交通安全の取り組みとして、長年、通学路の交差点で、子どもたちを見守ってくださっている地域の方がいる。9月13日には、市から講師を招いて、高齢者の事故防止について勉強させていただいた。次に、カーブミラーの清掃は、交通安全南分会のメンバーが熱心に取り組んでいる。防犯対策については、平成18年8月31日に「子どもの安全見守り隊」を結成し、その後「里浦命を守る集会」という会を毎年小学校で開催している。「子どもが誘拐されないように」ということで、警察が寸劇をしてくれたり、護身方法を教えていただいた。また、「子ども110番の家」は10軒から55軒に増加した。このようにして「地域の子どもは地域で守ろう」という取り組みを継続している。今年の年末には防犯教室の開催も予定している。

里浦地区の防災活動は、昨年で11年続いている。地域と小学校が連携して、全町あげた津波避難訓練を毎年1月に実施しているほか、行政に先駆けて、津波避難マップも配布したり、家具転倒防止などの啓発活動も続けてきた。今年も1月に津波避難訓練を実施した。防災機材の使い方なども学んだ。小学校の参観日と併せたので保護者にも参加してもらい、担架の使い方など学んでもらった。防災センターから職員の方に来ていただき、5年生の授業をしてもらった。親子で相談しながら防災用非常持ち出し袋の中身のリストを作った。また、同日には、徳島地方気象台地震津波防災班から職員の方に来ていただき、「津波から命を守るためにはどうすればよいか」ということで講演をしていただいた。その後、緊急地震速報を放送し、生徒や地域住民で実際に避難訓練を行った。

3月11日に発生した東日本大震災の際には、粟津港から川東地区沿岸の防潮扉が全て閉まっているかを確認して、避難場所である人丸神社に駆け上がったところ、多くの地域住民が避難してくれていた。その日は寒かったので、子どもたちのために（防寒用に）アルミのブランケットを準備して持ってきてくださった保護者の方がいるなど、平日頃の準備も出来ている感じがした。防潮扉は、県の施設だが、平成17年から地域で出来ることはやろうということで地域で開閉を行っている。ただし、海岸沿いの不法投棄の問題が深刻で、開閉に支障を来す時もあり、なかなか減らないのが現状なので啓発が必要と考えている。

東日本大震災以降、避難場所の再検討も行い、住民自ら指定した高台の避難場所を現状に即して解除するなど見直しを行っている。また、里浦小学校とは災害時の学校施設の利用に関する話し合いも持ち、休みの日でも地域住民が避難できるようになった。また、住民で話し合っ、市長に対して防災に関する9項目の陳情も行った。地区別に防災集会も開催している。また鳴南地区から約3キロある避難場所の里浦小学校まで実際に地域住民が歩く体験もした。9月1日の市の総合防災訓練にも、

408人の地域住民が参加するなど積極的に地域をあげて防災に取り組んでいる。

市長 ただ今、「環境部・文化部・福祉部・体育部・安全部」それぞれの活動報告を聴かせていただき、皆さんがそれぞれ地域の実情のなかで一生懸命努力されていることがよくわかった。

里浦地区の皆さんが行っている活動のなかで、市の施策に取り入れているものがある。それは、「家具転倒防止事業」である。非常に重要な事業であり、現在国の費用で実施しているが、今後も継続していくかどうか検討中であり、自主防災会、自治振興会の皆さんと協働させていただけたら良いと考えている。

7月11日に提出していただいた9項目の要望書については、里浦地区の実情が鳴門市全体にも反映できるものであったことから、今回の9月補正予算にある程度の部分を盛り込んで、議会に認めていただいた。里浦地区のことが鳴門市全体に波及している。里浦地区の自主防災会が長年培ってきた知識・経験が鳴門市全体に生かされている状況である。災害・震災対策は、これから始まるものと思っている。震災・津波の想定が国、県から発表されるのは来年の4月以降になると言われており、鳴門市では、国や県から想定が発表された後に、防災計画の見直しをさせていただこうと考えている。ただし、それまで何もしないというわけではない。小さいことでも出来ることから一つ一つ皆さんと話し合いを進めながら行っていきたくと考えている。里浦地区の活動を鳴門市全体に広げさせていただいているので、本当にありがたく思っている。今後ご提案等あれば真摯に受け止めたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

【里浦地区の防災への取り組みを取材したNHKの番組を生放送により会場全員で視聴（約5分）】

市民 鳴南地区は避難場所の里浦小学校まで40分もかかる。なかなか行けない。鳴南グランドに3階建ての避難ビルを建設すると言う話も言われていたが、なかなか実現しない。鳴南グランドを売却するという話が聞こえてくるのだが。

市長 グランドを売却する話は聞いたことがなく、その予定もない。もし、グランドや施設等を何らかの形で活用するような際には、地域の皆さんとの話し合いのうえで、どのようにすれば良いのかを決めていくので安心していただきたい。

また、地震の際に、避難場所まで行くのに40分ほど掛かるといのは時間的に厳しいと思う。今回の議会の中でもそのことについての様々な議論があった。震災・津波の想定が発表されるのは、来年の4月以降であるが、そのなかで「避難困難地域」という、災害の際に避難するのが困難な地域というのが鳴門市のなかでも何ヶ所か出てくると思う。そういった地域については、何らかの対応をしなければいけないと考えている。隣の松茂町には3階建ての避難場所がある。これを建設するのに5億円ほど掛かっている。県南のほうに行けば避難タワーというのがありますが、実際に見に行くと、その高さでは足りず、それだけでは間に合わないと感じた。まずは4月以降に想定が出てから、どうしても逃げる事が出来ずに避難困難地域に残る人の人数割合なども勘案して、どのような方法が良いか、皆さんとも話し合いを進めていきたい。

5. 地域の課題について意見交換

市民 「景観の良い街は防犯上も安全で、そうでない地域は防犯上も良くないだろう」と個人的には考えている。町内を見ても、里浦小、二中の通学路にもなっている道路の横の225メートルある用水路の柵が壊れたままになっている。子ども達を通る場所でもあり、整備をお願いしたい。

二点目は、旧の県道で現在は市道（旧信用金庫～ふれあい公園）にある側溝に土や草がたくさん堆積しているため、排水が追いつかなくなっている。里浦東のバス停がある場所にもかかわらず、草がたくさん茂っている。また、牛ノ橋から南方向に通る道のり面にも草木が生えていて通行障害になっている。大きな木が生えている場所もあり、景観が良くなかったが、出前市長室が開催される以前の9月27日に、市が綺麗に除草してくれたので、道が広がったような印象で本当に良かった。

三点目の質問については関連する資料がないが、廃棄物最終処分場の現況について聞かせていただきたい。

市民 鳴門市の指定文化財である天然記念物の「岩つきのウバメガシ」の根元近くが腐敗しており、木に勢いが無い。枝に別れている部分には腐敗防止の施工をしているが、それがはがれている状態である。このまま枯れてしまうのではないかとということで、問題提起をさせていただいた。柵も腐敗しているの、木を見に来た人に印象を良くするためにも対策を検討していただきたい。また、ウバメガシの近くの水路が臭い、草が生い茂り、見に来た人が不快な思いをされるので綺麗にしていきたい。また、入り口の道路に標識がないので標識を設置していただきたい。

市民 南地区に、4階建ての津波避難ビルを建設していただきたい。津波避難には、徒歩15分圏内に高台を確保することが基本であると言われていたが、粟津漁港から（避難場所である）里浦小学校までは2.5～3キロメートルほどあり、元気な人の早足で30～40分かかるといえるような避難困難な地域である。津波から命を守るには、少しでも早く、高い場所に逃げるしか方法がない。市長のご認識と今後の計画について伺いたい。

また、里浦小学校の屋上を津波避難場所として指定し、安全に利用できるよう、転落防止用のフェンスを設置していただけるようお願いしているが、その件に関しての進捗状況を伺いたい。現状は、40センチほどのコンクリート側壁があるのみなので、さらにその上に1メートル50センチほどの高さのフェンスを設置していただきたい。

また、自主防災会が山を切り開き、津波避難所として開設している高台として、人丸神社と宝珠寺の山がある。これらの避難所は、海拔12～16メートルである。鳴門市では、防災計画書にも避難場所として記載したり、広報などでも紹介されたりしていない。集団避難できる自然地のこのような避難場所は、市が公式に認知し、住民の津波避難場所として指定のうえ、必要な支援をしていただけるようお願いしたい。今後の（これらの避難場所の）取り扱いについて伺いたい。

また、大雨の時に団員が詰めてくれる消防団南分団詰所前の道は、いつも浸水している。9年ほど前、西側の側溝は、市が県に依頼して排水できるようになったが、東側は（排水できずに）詰まったままになっている。災害が起こった際、防災の中心になるような場所が浸水するので、対策をお願いしたい。

市長 用水路の柵が壊れているところは、里浦小高塚西2号線で鳴門市が管理している道路にある。防護柵の復旧は早期の対策が必要であると認識しているが、全長が約300m余りもあることから一度での施工は難しいため、年次計画を立て平成20年度より復旧工事を進めており、平成22年度まで

に南側から北方向へ106mの復旧工事を終えているところである。今年度も短い約30mを実施する予定で、今後も計画的に進めていきたいと考えている。また、防護柵の設置は北側からでも可能であるため皆様のご意見を伺いながら進めていきたい。防護柵に関しては、里浦だけでなく、全市的に設置の要請がある。そうした要請には出来るだけ応えていきたいと考えており、より危険な場所から全市的な優先順位をつけて、年次的に更新していくのでご理解いただきたい。

里浦最終処分場は、昭和60年以降、最終処分場として利用させていただき、平成12年6月に県に埋立て終了を届け出るまで使用していた。平成9年7月に地元土地改良区の方が中心となった「里浦ゴミ処分場対策協議会」が出来て、市と覚書が締結されている。処分場を撤去するまでの間は、環境整備を図りながら、公害防止に万全を期することになっている。なお、覚書の有効期限は5年間ということであったが、平成21年7月27日に最終的にまた更新させていただいて、現在に至っている。要望としては早期の撤去ということだが、現状では撤去が困難な状態であり、公害防止の観点から周囲をコンクリートの矢板で補強し、全体を遮水シートで覆い、雨水等の流入・浸透を防ぎ、対策工事を実施して、適正に管理させていただいている。この結果、毎月の放流水、地下水、河川水質、年一回のダイオキシン類等有害物質調査においても全て環境基準を大きく下回る良好な数値となっているのでご安心いただきたい。調査結果は対策協議会事務局（里浦農協）へ提出している。覚書に基づき、全面撤去、部分撤去、現地での熔融処理等を検討し、試算もしたが、どの案も数十億円の費用を要することから、現状ではすぐさま撤去するというお話ができないが、対策協議会の皆さんとは毎年お話ししながら、どうしていくことが一番良いか協議をさせていただいている現状である。なると金時の産地であることから、食の安全性も社会問題になっている現状において、風評被害につながったりしないよう、地元産品を守ることに配慮しながら、皆様方と議論して進めていきたいと考えている。すぐさま撤去するとは言えないが、対策協議会と協議をしながら進めていきたいと考えているのでご理解をいただきたい。

「岩つきのウバメガシ」の件については、昭和49年8月12日に鳴門市の指定天然記念物になった。実際に私も見に行ったが、非常に狭いところにある。昭和50年代に里浦史跡保存会の皆様方が中心となって（今のような形で）残していただいたということを知っている。鳴門の天然記念物であるので、現在腐っているところを回復する手段を専門家に相談し、安全柵の修復も含めて環境改善に積極的に取り組んでいきたいと考えているので、ご理解のほどよろしくお願ひしたい。

また、ウバメガシの近くの水路についても、実際に見て来たが、道路の冠水等を未然に防ぐという観点からも、十分調査して、優先順位をつけて計画的に清掃を実施したいと考えているのでよろしくお願ひしたい。また、ご提案があった標識の件については、もう一度具体的にお話を伺って、対応を考えていきたい。

避難ビルの件については、先ほども話した通り、来年の4月に想定が出た後に、何が必要なのかということも踏まえ、地域の皆さん方とフィールドワークで実際に歩いてみて考えていきたい。先日開かれた中央防災会議の最終報告案のなかで、避難時間は5分であるという結果が出ており、今までの考え方が大きく変わってくるのではないかと考えている。5分でどこまでの逃げられるのかを考えると今までとは全然違ってくるので、今後皆様方と議論のうえ、調整させていただけたらと考えている。どれだけの人数の避難場所が必要なのかということからはじめて考えていきたい。

市民 南地区は、1000人の命がかかっているのです、くれぐれもよろしくお願ひしたい。

市長 里浦小学校の屋上にフェンスを設置してほしいとの要望だが、松下自主防災会会長、里浦小学校長とともに現地を見せていただき、施設管理を行っている教育委員会と協議をした。その結果、出来

るだけ早期に整備をしたいと考えているので、もうしばらくお時間をいただけたらと思っている。学校の施設というのは、それに関する様々な規定がある。小さな子どもがフェンスの間から落ちないような設計にしなければいけないので細かいルールがあって、非常に高価なものになるということを経済委員会から聞いているが、出来るだけ早期に設置したいと考えているので、ご理解をよろしくお願いしたい。

また、住民が整備を行った避難所がハザードマップに載っていないということだが、皆さん方と協議を十分させていただいて、色んな形で広報したり、ハザードマップなどに載せて公表させていただきたいと思うのでよろしくお願いしたい。

自主防災会の皆さんが自主的に行っている避難路・避難場所の整備については、助成金を出させていただこうと考えた。議会にも認めていただき、一ヶ所につき、少ないが10万円を上限に助成金を出させていただくということになった。それぞれの地域から、「我々の地域ではこんなことをやりたい」ということを話していただくと、10万円を上限に助成金として出させていただきたいので、地域の創意工夫でご活用いただけたらと思う。この助成金については、もともとは里浦の皆さんからの提案を全市的に広げさせていただいた施策であるので、ありがたく思っている。

南分団に面した側溝が冠水する件だが、この件については、一度、土木課が見に行き、調査をさせていただいて対応したいと考えているので、ご理解のほどよろしくお願いしたい。

市民 移動図書館が廃止になるということを知ったが、これからも利用したいと考えているので存続をお願いしたい。

市長 移動図書館「青い鳥」のことだが、去年、車が古くなったので、新車を購入して欲しいとの要望が図書館から出された。しかし、移動図書館車というのは特殊な車両なので新しく購入するには、かなりの費用がかかるので困ったということがあり、この時、廃止になるのではという情報が流れたのだろうと思う。見積りを取らせていただき、修理しながら使っていくということも可能であるということがわかったので、このまま使っていくということになった。現在は、どうしたら市民の皆さんにもっと使ってもらえるのかアンケートを取りながらやっている。新たなニーズを掘り起こすということで、高齢者にももっと活用していただければと思う。今後も、移動図書館を利用しただけの方のご意見・ご要望を聞きながら運営を続けていこうと考えている。いつか、また廃止という話しがあっても、その時も、利用している市民の皆さんとお話をしながら考えていきたい。

市長 今まで出前市長室を廻らせていただいたが、地元の方からスライドを用いて活動報告をしていただいたり、テレビを見せていただいたりしたのは初めてだった。建設的な意見もたくさんいただき、本当に有難く思う。本日いただいたご意見については、十分内部で検討して、答えとして、皆さんにお返ししていけるようにしたいと考えているので、今後ともよろしくお願いしたい。

(以上)